

<「知るっば!久留米」 令和2年6月11日(木) 12:30~放送分>

久留米の防災 ～第2回～ 大雨への備え

<ゲスト：久留米市防災対策課 主査 湯口 秀隆さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

6月は雨のシーズンということで、『久留米の防災』というシリーズでお送りします。

今回のゲストは、この方です。

ゲスト:湯口秀隆さん (以下「湯口」)

久留米市役所総務部防災対策課の湯口と申します。

よろしくお願いします。

坂本 『久留米の防災』シリーズ第2回のテーマなのですが、普段からの『大雨への備え』ということで、今日は色々勉強していきたいと思います。

大雨に備えて、事前にどんな準備をしておくといいんでしょうか？

確認が必要なものについて教えてください。

湯口 災害に備えて準備をしておくという物について説明します。

人間が生きていく上で大切なものとして、まずは水と食料ですね。

水については、大人1人につき1日3リットルが必要と言われています。

飲み水としても必要ですが、アルファ化米など非常食を作る際ですとか、洗濯、トイレ、歯磨き等に使用する生活用水としても必要です。

食料は、アルファ化米や缶詰、レトルト食品、パン、缶、カップ麺など賞味期限が長いものがあります。

あと、チョコレートなどの甘いものがあると良かったという声をよく聞きますね。

坂本 やっぱり、甘いものですね。ストレスを解消してくれますからね。

湯口 避難所生活が長くなると、どうしてもストレスが溜まりますからね。

坂本 他には何がありますか？

湯口 その他にあるといい物は、懐中電灯、軍手、ランタン、ラジオ、トイレトペーパー、ウェットティッシュ、新聞紙、ラップ、電池、カセットコンロ、紙皿、紙コップ、下着、そして薬ですね。

あと、ビニール袋とかスリッパがあるといいと思います。

それから、私が個人的にちょっと大事だなと思うのが、携帯トイレですね。

食べるのは少しぐらい我慢できるんですけど、トイレはなかなか我慢できないですからね。

坂本 なるほどね、わかりました。

今、話にでましたアルファ化米、実は私も少し知っているんですが、乾燥したお米ですよ。

ちょっと、どんなものなのか教えてもらっていいですか？

湯口 アルファ化米は色々な種類がありまして、白米はもちろん、五目ご飯ですとか、ワカメご飯、カレーピラフ、チキンライス、エビピラフ、松茸ご飯など色々な種類があります。

私は家族でよくキャンプに行くんですが、その時にお湯を入れて作ってみると意外とこれが美味しいんですよ。

お湯はもちろん、水でも作ることができて美味しいので、皆さんもぜひ試してもらいたいです。

アルファ化米は、大きいスーパーやホームセンター、スポーツ用品店の登山コーナーとかでも売っていますので、ぜひみなさんお試しください。

坂本 実は私も食べたことがあるんですけど、結構イケるといって、美味しいですよ。

簡単にできるし美味しいので、備蓄しながら、たまには食べてみるのもいいかなと思います。

ちなみに、備蓄というのは、どれくらいの量を準備していたらいいんですか？

湯口 福岡県の備蓄基本計画の中で、食料とか水は3日以上分の備蓄を推奨しています。

家族が多かったりすると保管場所の問題や保存期限を切らしてしまうという方もいらっしゃるかもしれませんが、普段から使っていただいて、後から使った分だけ補充しておけば無駄なく備蓄ができるのかなと思っています。

ちなみに、これをローリングストック法と言います。

坂本 カッコいい名前ですけど、要はちょっと使って、また買い足してを繰り返すってことですね。

例えば、防災の日とかに家族と一緒に試してみたり、電気を消して停電を経験してみたりとかしたらいいかもしれないですね？

湯口 そうですね。

坂本 その他にも、身近な場所で災害が起きやすい場所はどこなのかという関心があると思いますが、久留米市ではハザードマップを作っていると聞いています。

それは、どんなマップ(地図)ですか？

湯口 久留米市では、大きく3種類のハザードマップを作っています。

1つ目が避難判断マップといいまして、これは洪水ハザードマップのことです。

2つ目が土砂災害ハザードマップで、3つ目が道路冠水注意マップという内水氾濫のマップになり

ます。

坂本 3種類あるわけですね。

湯口 1つ目の避難判断マップなんですが、筑後川などの主要9河川ごとに作っています。

これは、想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域において、浸水した場合に想定される水深を表示したマップになります。

2つ目の土砂災害ハザードマップですが、土砂災害は急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりの3種類があります。

この土砂災害が起こる可能性があるエリアについては、福岡県が『イエローゾーンと呼ばれる土砂災害警戒区域』と『レッドゾーンと呼ばれる土砂災害特別警戒区域』として指定しています。

久留米市には、その土砂災害警戒区域のある校区が11校区ありますので、11校区分を市ホームページで土砂災害ハザードマップとして公開しています。

3つ目の道路冠水注意マップですが、これは大雨によって筑後川の水位が上昇し、それに流れ込む支川や排水路の流れが悪くなった時に、雨水が溢れて道路や宅地に流れ込む内水氾濫のエリアを表示したのになります。

近年の大雨であった平成24年、平成30年、そして昨年の令和元年の冠水実績をもとに、内水氾濫によって水深約10cm以上冠水の恐れがある道路を表示したのになります。

坂本 なかなか細かく、詳しく作ってありますね。

そのハザードマップは、私たち市民はどのように利用したらいいんですか？

湯口 まず、事前の準備として、自宅や勤務先が、どの河川にどのくらいの影響を受けるのか？

また、避難所などの安全な場所に移動することを水平避難と言いますが、水平避難する必要があるのか？

自宅の2階など、屋内の安全な場所を確保する垂直避難でいいのか？

を事前に確認することがとても大切だと思っています。

マンションの高層階や浸水想定区域以外にお住まいの方が避難所に避難することは、逆に危険なこともあります。

市で避難勧告や避難指示を出しますが、それが出たからといって避難所に行くことだけが避難ではないと思っています。

今年は特に新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からも、本当に避難所への避難が必要なのかを、改めて事前に確認しておくことが大事だと思っています。

坂本 そのハザードマップは、どこで見ることができるのですか？

湯口 先程説明した3種類のハザードマップは、市のホームページで公開しています。

ただ、市のホームページで公開している分は、Web版のハザードマップというのになります。

これは、今まで3種類それぞれで確認する必要があったハザードマップをインターネット上で重ねた

もので、すごく便利なマップになっています。

避難所までのルートの検索などもできますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

これも市のホームページで公開しております。

坂本 なかなか便利になったハザードマップをぜひご利用いただきたいと思います。

湯口さん、どうもありがとうございました。

久留米市では、大雨が降った際の危険箇所を詳しく確認できるハザードマップを公式ホームページでもご覧いただけます。

緊急速報メールやドリームス FM の緊急告知防災ラジオなどで、避難情報や災害情報も発信しています。

大雨に備えて、防災意識を高めていきましょう。

今回は、『大雨直前の行動』をテーマにお届けします。